

スタッドレスタイヤを 再生する「けんま君」

工機は、タ

溝の高さは十分にあって、利きが悪くなつたから買い替える、というスタッドレスタイヤの常識を覆す再生研磨機が登場した。エー・アイ・エス（本社・旭川）が開発した「けんま君」がそれだ。

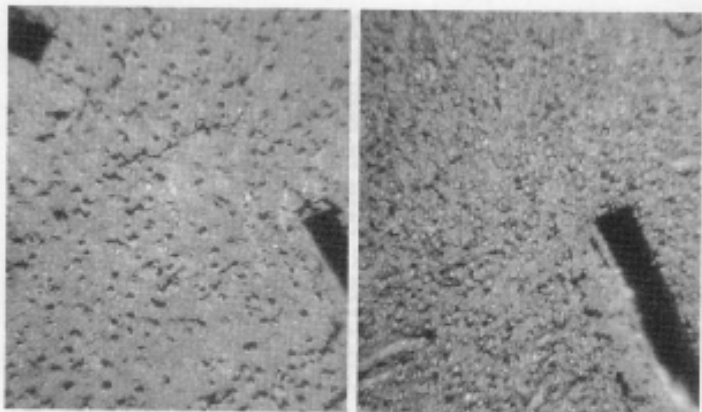
スタッドレスタイヤの溝は九〇程度といわれるが、安全とされる三分の二以上の溝の高さが残っていても、経年劣化で交換されることが多い。スリップサインが出るまで履き続けることはまずないだろう。

このタイヤ表面再生研磨加

イヤをモーターで回転させ、サンドペーパーで表面を〇・二ミ程度削ることにより、気泡の露出とエッジを回復し、グリップ力を強化するという仕組み。前後の写真を見ていただければその違いは歴然だ。所要時間もタイヤ脱着を含め、十五分程度と短い。

現在一号機はオートレット旭川（末広東一ノ六）にあり、二月末までタイヤ四本で三千元から四千円のキャンペーン価格で研磨している。今後は札幌にも販路を広げたいと考えて。中古

特許出願中のタイヤ表面再生研磨加工機「けんま君」



違いがはっきり分かる（右が研磨後）

タイヤも劣化していないゴムを露出させ再生することが可能なので、タイヤ販売店、運送会社、バス会社などから引き合いが寄せられている。開発したエー・アイ・エス（☎0166・60・5677）の松井社長は、機械設計が本業だが、数年前から研究を重ね実用化にこぎ着けた。「包丁を研ぐのと同じように、スタッドレスも性能が落ちたら研磨して回復することが可能です。滑るようになったなと感じたら使って欲しい」と語っている。「けんま君」の本体価格は一台二百三十万円。